日本プロジェクトマネジメント協会北海道セミナーを終えて

和田　雅子*・松本　奈巳**

2020 年 7 月 10 日（金），日本プロジェクトマネジメント協会が主催する「北海道 PM セミナー　危機に立ち向かうプロジェクトマネジメント」に参加し，「高大連携の取り組みからみえるプロジェクトマネジメント～藤女子大学出張講義と北海道札幌北高等学校家庭クラブの活動～」と題した講演を行なった。

本セミナーは日本プロジェクトマネジメント協会が会員向けに主催しているイベントであり，藤女子大学は同協会と教育や研究に関する包括連携・協力協定を同協会と結んでおり，本年度で２回目のセミナー参加となった。また本年度は新型コロナウイルスの世界的流行により，ウェブ会議システム zoom ウェビナーによるセミナー開催となり，これにより昨年を大幅に上回る参加者にむけて講演させていただく機会が得られた。本稿で当日の報告をしていく。

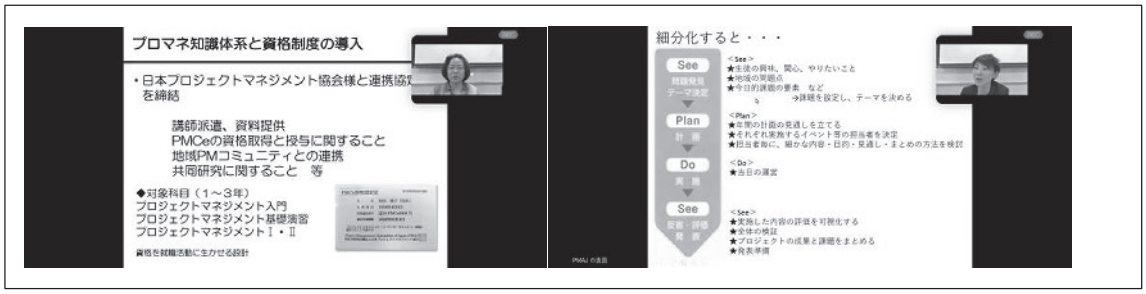
１. 発表概要

発表時の様子。和田（左），松本（右）

イベント当日，運営会場の札幌エルプラザから zoom を利用して発表した我々は，大学で開講しているプロジェクトマネジメント（以下 PM）関連の授業から構築した知識体系を高校のクラブ活動（家庭クラブ）で実践し，活動してきた内容を纏めて発表した（詳細は第 14 号に記載）。主たる運用フィールドがビジネス業界である PM の知識体系を，社会科学中心の女子大学で，また高大連携の取り組みでいかに教え，学生・生徒の活動に生かしていくのか，伝え方で工夫している点や，学生・生徒が理解しやすいよう，知識の取捨選択をしている点等を中心に紹介。PM 知識に加えて，企画立案に関する知識を融合して教えることで，学生・生徒がプロジェクトに容易に取り組むことができるようになることも，一連の取り組みから得た知見として発表した。高大連携については，２年間で得られた成果と課題について共有し，今後も思考方法やスキルをブラッシュアップさせていけるような取り組みに発展させることを付け加えた。また，PM の枠組みを学生・生徒の実態に合わせて柔軟に取り入れていくことで，彼らが持っている感性を生かしつつ，自分達の頭で考え，行動するというプロジェクトマインドの醸成につなげたいというこちらの想いも伝えられる場となった。

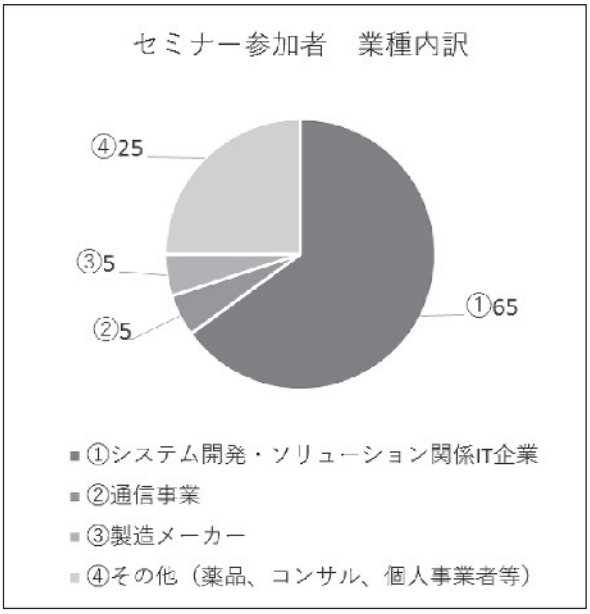
*　藤女子大学人間生活学部
**　北海道札幌北高等学校

藤女子大学におけるPM教育の構築は，来年度（2021年度）で初回の完成年度を迎える。完成年度で得られた知見を踏まえて，大学生・高校生むけの理解しやすいPM教科書の制作を目指して，今後とも取り組みを継続していく予定であることを最後に付け加え，発表を終了した。



2. 参加者概要と感想

当日の参加者は本セミナーで180名前後の参加者がいたが，業種内訳比は右図のようになっている[1)]。圧倒的にシステム開発，ソリューション関係のIT企業が多く，通信事業も含めると70%になる。また当日参加者の参加エリアは，圧倒的に関東圏，関西圏からの参加者が多かったのは我々としては予想外であった。昨年度は対面式での北海道セミナーであったので，当日会場を訪れた参加者は40名程度だったように記憶している。zoomを通したイベントの可能性を強く感じたところであり，多くの方に教育業界におけるPMの取り組みを紹介できたことが幸いであった。



【参加エリア】道内：13，東北：4，関東：109，中部：10，関西：19，四国：２，
中国：２，九州：６，沖縄：1　不明少々

同協会は，もともとビジネス関係の会員が多く，プロジェクトマネジメントをビジネスの現場で実践している当事者が多数なので，教育というフィールドで高大連携をテーマにしたプロマネ報告がどのように受け入れられるか心配であったが，概ね報告の趣旨をご理解いただけたと感じている。

1）日本プロジェクトマネジメント協会からの提供データ

【参加者から頂いた主なコメント（要旨抜粋）】
・就業経験が無い学生や生徒に対してPMを教えることは非常に困難なことであるが，身近な課題をテーマに取り上げて，知らず知らずのうちに PM の実践経験を積むという取組みは，他の都府県でも十分に参考となる内容だと感じた。特に高大連携で取組まれたことが素晴らしいと思った。
・技術者向けの話でなく，工学系でもない学校での普通の活動の中でPMの技術を役立てていることが分かった。PMの技術は，何にでも応用できると思った。
・高校生，大学生のころにPMスキルにふれることでその後の人生に大きな影響を与えてくれる気がした。
・教育現場でPMがどのように教えられているのかがわかり，参考になった。
・仕事経験のない学生にPMを教える難しさを試行錯誤していることは，会社でもプロジェクト経験のない若手社員への教育に通じるものがあると感じることが出来た。
・大学や高校での教育での難しさ，いかにわかりやすく教えるのかの点は参考になった。
・高大連携は大きな変革を生み出していけるものと感じた。
・大学でPM教育を行っているとの事，驚いた。
・大学，高校からPMのカリキュラムがあるのは驚いた。効果も出ているようで興味深い。
・PMになじみのない人に対する教育の難しさと，実践の中でいかににかみ砕いて生徒／学生が学習できているかを理解できた。大変参考になった。
・大学や高校でこういった取り組みをしているのに興味がわいた。学生が納得できる内容であれば，それを会社で導入できれば理解が広がるのではないかと感じた。
・高校生が部活でPMを実線。難しかったと思う。教育の一環で取り入れてもよいかも。
・家庭クラブをとおしてPMを体験，実践されていることに驚いた。どんな場面にもPMが使えることをあたらめて理解できた。
・PMの思考を，高校生の授業に取り入れた取り組みは，大変素晴らしい。ある意味正解が無い授業は教えるのが大変だと思うが，生徒にとっては大変意義のある体験だと思う。
・日本プロジェクトマネジメント協会と連携協定を結んで取り組み素晴らしいと思った。

日本プロジェクトマネジメント協会関係者と